

副首都推進本部（大阪府市）会議

《第25回議事録》

■日 時：令和8年5月29日(金) 11:30～11:40

■場 所：大阪市役所 5階大応接室

■出席者：吉村洋文、横山英幸、山口信彦、森岡武一、渡邊繁樹、西山忠邦、高橋徹、
(名簿順) 山本剛史、市道泰宏、中小路和司、西島亨、山下研一郎、阪本哲也

(西島事務局長)

定刻となりましたので第25回副首都推進本部(大阪府市)会議を開催させていただきます。

本会議につきましては会議公開の原則にのっとりまして、会議の状況をインターネットで配信し、配付資料、議事録を公表することといたしますので、あらかじめご了承いただきますようお願い申し上げます。

初めに本日の会議の出席者を紹介いたします。

本部長の吉村大阪府知事です。

副本部長の横山大阪市長です。

その他の大阪府・大阪市の出席者につきましてはお手元に配付しております資料1の出席者名簿の通りでございます。

それでは議題に移らせていただきます。

本日の議題は、「副首都・大阪の実現に向けた今後の進め方について」でございます。本日は事務局からのご説明はございませんので、早速ではございますが、本部長、副本部長の順にご発言をお願いいたします。まずは本部長、お願いいたします。

(吉村本部長)

皆さん、おはようございます。先日、大阪市会において法定協議会の設置に関する議案、これが可決をされました。6月3日から大阪府議会も開催されますけれども、もうすでに維新の会においては賛成の方針を示しているということで、都構想の設計図づくりに向けたまさに議論を進めていくステージ、これが整いつつあると思います。

また、これに関連してなんですが、副首都の実現に向けて、国で副首都法案の検討が進められています。そして、その法案骨子の中で、副首都が指定されたときには、副首都ごとの整備方針を定めるということ、これが規定をされています。

ここ大阪においては、単に首都機能のバックアップというだけではなくて、大阪の個性、価値観、また強い経済、これをさらにこのポテンシャルを発揮して、日本において日本の経済を成長するぐらいのツインエンジンとなるぐらいの強い経済圏域、まちづくり、これを作っていきたい。そういった副首都、成長エンジンとなる副首都をめざしていきたいと思いま

す。その上では、大阪がめざす副首都像を明確にしていきたいと思います。ですので、副首都において必要となる拠点、機能、それからまちづくり、インフラ、そして規制緩和、民間が投資をしやすくなるような、民間が活躍しやすくなるような税制、その他財政支援等々ですね、具体的に整理して、国に対して打ち込んでいきたいと思います。

今後ですね、副首都法案、これが成立された後には、政府が基本方針を定めるということになります。これに向けて、大阪において、国に具体的な提案内容を速やかに整理していくべきだと考えております。ですので、府市において、それらを検討する新たな体制を早急に構築してもらいたいと思います。府市関係部局から人材を集めて、そしてスピード感を持って、短期間において取りまとめをお願いしたいと思います。大阪がめざす副首都像、そして国に打ち込んでいくもの、これを明確にしていきたいと思います。

大阪府・大阪市の力を、総力を結集して、これからの大阪の未来、成長、50年、100年後を見越した大阪の未来、成長を考えた、都構想の実現であり、また、副首都の実現に向けた議論を加速させていきたいと思いますので、ぜひ府市の皆さんにおかれましては、協力をよろしくお願いいたします。大阪の未来に向けて、皆で力を合わせて進めていただくというふうに思っています。

(西島事務局長)

はい、ありがとうございます。それでは副本部長、よろしく申し上げます。

(横山副本部長)

はい、おはようございます。今、知事からもあった通りですね、先日、大阪市会の方で法定協議会の設置関連議案が議決いたしました。あとは府議会の議決をもって法定協議会が設置され、また都構想の議論が進んでいくことになろうかと思っております。

併せまして、副首都関連法案の議論も国の方において検討が進んでいる中で、知事からもありましたとおり、副首都ごとの整備方針を副首都指定後に作っていくことになると思いますが、これを見据えてですね、大阪たる、大阪らしい、また願わくば関西全体の成長をけん引するような提案について、副首都の申請主体は都道府県になりますが、大阪市としてもしっかり参画していきたいと思います。その上は、まさに経済圏の都心部となるわけですから、都心部たる提案としてどういったものが必要なのか、これはしっかりご検討いただきたいと思っております。

例えばスタートアップや規制緩和もそうでしょうし、まちづくりやインフラも非常に重要になってくると思います。どういったものを国に打ち込んでいくのか、この検討を加速してほしいと思いますので、ここは府市の力を結集して進めてほしいと思います。

また、ぜひ検討に当たりましては、いわゆる民間の方や有識者の方の意見もしっかり取り入れながら、なかなか役所では出てこないようなアイデアも含めまして、ぜひご教示いただきたい。

そして、冒頭申し上げたとおり、大阪ならではと言いますか、関西圏をけん引するような、素晴らしい副首都となるような提案内容のブラッシュアップ、これをお願いしたいと思えますので、よろしく願いいたします。以上です。

(西島事務局長)

はい、ありがとうございました。今、本部長、副本部長からのご指示をいただきました。このほか、ご出席の皆様からもしご発言あればお願いいたします。

(市道大阪府総務部長)

大阪府総務部長の市道でございます。

ただいま、体制整備ということで、早急にというお話でございますが、体制を整備する時期というのは、いつ頃を想定させていただいたらよろしいですか。

(吉村本部長)

今、副首都法案が与党審査の段階に入っています。この国会の提出時期等を踏まえる必要があると思いますが、考えたとしても6月中旬ぐらいには体制を整えてもらいたいと思います。この体制においてはですね、大阪府市でお願いをしたいと思います。

副首都整備計画というのは、副首都ごとの整備方針を定めると、まさに法案骨子に書かれています。そして、この副首都ごとの整備方針というのは、指定されるのは道府県であり、そしてその道府県の知事の意見を尊重するというふうに定められていますが、ここ大阪においては、大阪府だけで僕はできるものではないと思っています。

やはり大阪市、そして大阪府、これがある意味一つになってですね、この大阪全体がどう成長をめざすのか、そして先ほど市長がおっしゃった通り、もっと言うと関西の中心地でもありますから、それは関西の成長にもつながってくるというものでもあります。

ですので、大阪府だけではとてもできるものではないと思っていますし、その知事の意見においても、やはりこの大阪府・大阪市合わせた「未来の大阪像」というものが重要だと思いますので、ここにおいて大阪市の皆さんも協力をお願いしたいと思いますし、この市・府の体制で、6月中旬ぐらいにしっかりと体制を整えて、めざすべき副首都像というのを明確にしてもらいたいというふうに思います。これは国に対して打ち込んでいきます。

(西島事務局長)

はい、ありがとうございました。他にございますでしょうか。

そうしましたら、以上の内容をまとめさせていただきますと、ただいま本部長の方から、大阪のめざす姿と、あと国が定める基本方針ですとか、副首都ごとに定める整備方針に向けて具体的な提案というのを取りまとめていくための検討の体制を整えていくということ、その体制については6月中旬を目途にということでご指示がありましたので、そのようにま

とめて、あと国に打ち込んでいくということによろしいでしょうか。それではよろしく願いいたします。本日は以上となります。誠にありがとうございました。

引き続き囲み取材を行います。知事・市長につきましては、準備が整いますまで、その場でお待ちをいただきますようお願い申し上げます。報道の方につきましては、担当職員から指示があるまで、しばらくその場でお待ちください。副知事・副市長におかれましては、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございました。ご退席いただきまして結構でございます。どうもありがとうございました。